

平成 2 9 年度 事業報告書

※ は じ め に

※ 法人 の 概要

※ 事業 の 概要

※ 財務 の 概要

学校法人 朴沢学園

はじめに

○ 東日本大震災からの復興状況

震災発生から7年を経過しておりますが、授業料減免などの措置は引続き継続し、また、施設面では、新たな直接被害の判明はありませんでしたが、震災でダメージを受けた設置高校校舎の老朽化が限界に近づき、建替えを踏まえた応急の修繕措置を講じました。

○ 事業計画との対比

法人全体の事業計画として、長期的には「歴史と伝統の継承」および「大学・高校部門別の教育機関としての適正規模の構築」を掲げており、その基本的方向に沿って、校舎建替えを含む「川平地区の再整備」の検討、高校部門における「将来構想」検討その他の学校法人運営を実施しました。

中期的には、「教員高齢化に伴う人的資源の再構築（教員若返り策・資質向上策）」および「人件費負担の軽減」という人事諸策、また川平地区における高校校舎建替えを中心課題とする「川平地区再整備事業」の実施、および船岡地区における「船岡南土地の有効活用」という施設・設備整備、さらに「外部認証評価結果を踏まえた大学教育改革の推進・実施」、および「定員確保のための高校教育改革の推進・実施」という教学運営、そしてそのための「財源の調達」を基本的施策としております。

このうち、人事諸施策については、大学部門では、引続き若手教員登用あるいは特有資格を基盤とした専門的業務従事者の処遇制度改定等を図る一方、高校部門では、経営改善計画に基づく教員基本給是正措置に関し派生した訟務の想定外の結果による影響も残り引続き明確な施策を打ち出せないままの推移となりました。一方、施設・設備整備については、「高校校舎建替え」について老朽化への弥縫策も限界にきている状況も踏まえ、「財源の調達」の検討を未着手のまま、「川平地区再整備事業」の一環として具体的検討を実施しました。大学部門の「財源調達」では、大学教育の改革推進に向けた「改革総合支援事業」について前年同様3タイプについて助成措置を獲得し設備整備に関する調達の一部拡充が実現した一方、東京オリパラ・ホストタウン構想と連動させた「私学ブランディング研究事業」については前年に引続き不採択となり財源調達に寄与できませんでした。大学部門の教学運営については、「子ども運動教育学科」開設初年度の入学定員未充足を第2年度目で解消した他、教養教育の基本要素を為す英語教育について、体育系大学としての専門教育等に即した習熟度別クラス編成その他の新教育体系を順調に導入しました。さらに、スポーツ科学専門教育における現場実践の機会拡大について、地域のプロスポーツであるサッカー・野球・バスケの各スポーツ企業との間の「アカデミック・パートナー協定」を企図どおり締結し、「スポーツを支える」機能を体験できる仕組みの教育課程への組み込みが実現しました。

そして、平成29年度は仙台大学開学50周年の節目にあたり、各種記念事業を予定通り実施しました。

この他、本報告書記載事項以外の学校教育法第百十三条等に基づく必要情報の公開については、設置大学のホームページにて実施しております。

法人の概要

○ 建学の精神・教育目標について

本学校法人の建学の精神は、「実学と創意工夫」であります。そして、「心身ともに健康な人間の形成」ということを、設置する仙台大学・明成高校共通の教育目標としております。大学部門では、この精神、目標を踏まえ、老若男女、健常者・非健常者を問わない全ての人々が対象ということで「スポーツ・フォア・オール」を、また、高校部門では、「プラクティカルラーニング・フォア・オール」を、それぞれ教育理念として掲げております。

○ 設置する学校の入学・収容定員、入学者・在籍者数

仙台大学

(平成29年5月1日現在)

		入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
体育学部	体育学科	250	332	1,000	1,282
	健康福祉学科	100	103	400	426
	運動栄養学科	80	90	320	335
	スポーツ情報マネジメント学科	40	47	160	188
	現代武道学科	40	50	140	190
	子ども運動教育学科	40	18	40	18
	学部計(編入学を除く)	550	640	2,060	2,439
	学部編入学	48	9	96	13
	学部合計	598	649	2,156	2,452
大学院スポーツ科学研究科		23	21	46	42
合計		621	670	2,202	2,494

明成高校

(平成29年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
普通科	240	219	720	634
調理科	120	112	360	303
介護福祉科	80	13	240	75
合計	440	344	1,320	1,012

法人全体

(平成29年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
法人全体	1,061	1,018	3,522	3,506

○理事・評議員・監事について

(平成30年3月31日現在)

	寄附行為上の人数	実員数
理 事	14名以内	12名
評 議 員	29名以内	27名
監 事	2名	2名

理事会・評議員会 開催状況

理事会 年4回開催
評議員会 年3回開催

理事・評議員・監事について

(平成30年3月31日現在)

	氏 名	選任区分	勤 務	兼 職 名
理 事 (14名 以内)	朴 澤 泰 治	2号	常 勤	理事長・仙台大学学事顧問
	安 倍 寿 広	3号	常 勤	常務理事(総務)・法人事務局長
	佐 野 仁	2号	常 勤	常務理事(財務)
	櫻 井 俊 夫	2号	常 勤	理事(高大連携)
	阿 部 芳 吉	1号	常 勤	仙台大学長
	佐々木 稲 生	1号	常 勤	明成高等学校長
	久 道 茂	3号	非常勤	(財)宮城県対がん協会会長
	中 井 憲 治	3号	非常勤	弁護士
	阿 江 通 良	3号	非常勤	日本体育大学特別招聘教授
	向 井 正 剛	3号	非常勤	仙台大学名誉学長・仙台大学コンサルタント
	滝 口 茂	3号	非常勤	柴田町長
	藤 田 努	3号	非常勤	非常勤理事
評議員 (29名 以内)	橋 本 実	1号	—	仙台大学教授
	関 矢 貴 秋	1号	—	仙台大学教授
	土 生 英 則	1号	—	明成高等学校特任副校長
	海 和 由美子	1号	—	明成高等学校教頭
	鈴 木 省 三	2号	—	仙台大学副学長(同窓会会長)
	松 下 邦 雄	2号	—	(同窓会中京支部長)
	二 瓶 たけ子	2号	—	(同窓会(松操会)会長)
	園 部 禮 子	2号	—	(同窓会(松操会)幹事)

	藤 田 努	3号	—	常務理事(総務)・法人事務局長
	佐々木 稲 生	3号	—	明成高等学校長
	安 倍 寿 広	3号	—	常務理事(総務)・法人事務局長
	朴 澤 泰 治	4号	—	理事長・仙台大学学事顧問
	小 泉 清 一	4号	—	(一社)柴田町観光物産協会会長
	櫻 井 俊 夫	4号	—	理事(高大連携)
	杉 本 輝 昭	4号	—	(有)グランテル代表取締役
	田 中 正 人	4号	—	(株)菓匠三全専務取締役
	齋 藤 進	4号	—	元仙台空港鉄道(株)代表取締役社長
	吉 田 龍 哉	4号	—	仙台大学事務局長
	阿 部 佑	4号	—	阿部会計事務所税理士
	佐 藤 佑	4号	—	仙台大学名誉教授
	佐 野 仁	4号	—	常務理事(財務)
	向 井 正 剛	4号	—	仙台大学名誉学長・仙台大学コンサルタント
	青 沼 一 民	4号	—	仙台大学教授
	吉 田 俊 司	4号	—	明成高等学校事務長
	杉 山 博	5号	—	東北電気製造(株)
	紋 谷 洋 三	5号	—	仙台市立人來田中学校教頭
	高 橋 賢 一	5号	—	(有)松緑亭高富取締役社長
監 事 (2名)	岩 崎 悌 二	外部監事	非常勤	元(株)七十七銀行常務取締役
	恵 美 文 雄	外部監事	非常勤	(株)ベガルタ仙台顧問

○教職員について

(平成29年5月1日現在)

	教 員		新助手	職 員
	専 任	非 常 勤	常 勤	常 勤
法 人	—	—	—	10
大 学	102	78	26	66
高 校	52	40	—	17
合 計	154	118	26	93

註)教職員数について 私学事業団「基礎調査票」に基づく数値で、学長、校長を含む。

註)学生数について 私学事業団「基礎調査票」に基づく数値である。

○ 学校法人の沿革

(明治期)

明治 12 年 (1879 年)	1 月	創設者初代朴澤三代治 仙台市に松操私塾を開設
明治 17 年 (1884 年)	4 月	私立松操学校に校名を改称 米国教育博覧会に雛形など一斉授業法の裁縫教材を出展

(大正期)

大正 15 年 (1926 年)	3 月	実業学校令に基づき師範科増設
------------------	-----	----------------

(昭和期・戦前)

昭和 2 年 (1927 年)		宮城県より師範科卒業生に対し小学校裁縫専科正教員 無試験検定認定校として許可を受ける
昭和 6 年 (1931 年)	10 月	朴沢松操女学校に校名を改称し高等師範科増設
昭和 12 年 (1937 年)	7 月	財団法人朴沢松操女学園設立 (財団法人化) 文部省より高等師範科卒業生に対し裁縫科中等教員無 試験検定認定校として許可を受ける

(昭和期・戦後)

昭和 23 年 (1948 年)	4 月	学制改革に伴い朴沢女子高等学校 (全日制) に校名を 改称
昭和 26 年 (1951 年)	3 月	私立学校法制定に伴い学校法人朴沢松操女学園を設立
昭和 42 年 (1967 年)	3 月	学校法人朴沢学園に法人名を改称
昭和 42 年 (1967 年)	4 月	仙台大学を開設 (体育学部体育学科)
昭和 47 年 (1972 年)	4 月	朴沢女子高等学校に調理科開設 (昭和 50 年食物科に 改称) 調理科に厚生省調理師養成施設併設
昭和 49 年 (1974 年)	7 月	朴沢女子高等学校が仙台市青葉区川平に校舎を移転
昭和 54 年 (1979 年)	10 月	学校法人朴沢学園創立 100 周年記念式典を挙

(平成期)

平成 4 年 (1992 年)	4 月	朴沢女子高等学校を明成高等学校に校名を改称
平成 7 年 (1995 年)	4 月	仙台大学体育学部健康福祉学科を開設 健康福祉学科に厚生省介護福祉士養成施設を併設
平成 8 年 (1996 年)	4 月	明成高等学校食物科を調理科に改称・男女共学化
平成 10 年 (1998 年)	4 月	仙台大学大学院スポーツ科学研究科 (修士課程) を開設
平成 11 年 (1999 年)	1 月	学校法人朴沢学園が河北文化賞を受賞
平成 11 年 (1999 年)	11 月	学校法人朴沢学園創立 120 周年記念式典を挙

平成14年(2002年)	4月	明成高等学校普通科を男女共学化
平成15年(2003年)	4月	仙台大学体育学部運動栄養学科を開設 運動栄養学科に厚労省栄養士養成施設を併設
平成18年(2006年)	12月	仙台大学・明星大学通信教育学部間で小学校教員養成に関する教育業務提携開始
平成19年(2007年)	4月	仙台大学体育学部にスポーツ情報マスメディア学科を開設
平成20年(2008年)	3月	仙台大学が財団法人日本高等教育評価機構より機関別認証評価の認定を受ける(平成26年度末まで)
平成20年(2008年)	4月	仙台大学体育学部にスポーツ情報マスメディア研究所を設置
平成21年(2009年)	4月	仙台大学大学院に修士課程1年コース設置
平成21年(2009年)	4月	明成高等学校に介護福祉科を設置
平成23年(2011年)	3月	東日本大震災が発生し、仙台大学学生3名が津波の犠牲となり、仙台大学・明成高等学校とも、施設面で多大な被害が発生
平成23年(2011年)	4月	仙台大学体育学部に現代武道学科を開設
平成23年(2011年)	7月	学校法人朴沢学園教育歴史資料が仙台市有形文化財として指定を受ける
平成24年(2012年)	1月	明成高等学校調理科リエゾン・キッチン活動が河北文化賞を受賞
平成25年(2013年)	4月	仙台大学スポーツ情報マスメディア研究所および生涯学習に関する組織をスポーツ健康科学研究実践機構に統合・再編成
平成25年(2013年)	8月	明成高等学校隣接地(法人用地)に、東日本大震災により使用不可となった高校グラウンドの代替グラウンドを含めた、大学・高校共用の川平明仙フィールドを整備
平成26年(2014年)	3月	仙台大学が財団法人日本高等教育評価機構より機関別認証評価の認定を受ける
平成29年(2017年)	1月	明成高等学校男子バスケットボール部がウインターカップ3年連続優勝などにより河北文化賞を受賞
平成29年(2017年)	3月	中国青海省より国際共同研究遂行に対する顕彰を受賞
平成29年(2017年)	4月	仙台大学体育学部子ども運動教育学科を開設
平成29年(2017年)	11月	仙台大学50周年記念 I F E (International Friendship Event) 開催
平成30年(2018年)	1月	仙台大学50周年記念式典を挙行

事業の概要

1. 法人事務局(大学・高校共通): 全体概要は「はじめに」に記載した通りであります。

◎ 外部調査受検など

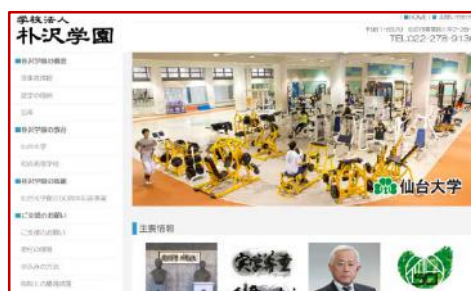
- ・ 公認会計士による会計監査など 計 8 回
- ・ 宮城県による「平成 29 年度私立学校実態調査」ヒアリング(5月)
- ・ 日本私立大学協会・私立高等教育研究所による「IRヒアリング調査」(6月)
- ・ 宮城県による「平成 29 年度私立学校運営状況現地調査」(11月)
- ・ 平成 28 年度受配者指定寄付金に係る対象事業の実施状況等調査(1月)
- ・ 平成 29 年度「明成高等学校評価委員会」 第 1 回(9月) 第 2 回(3月)
- ・ 平成 29 年度「学校法人監事研修会」(10月)

◎ 仙台大学開学 50 周年記念事業

★ 記念誌発行



★ ホームページ更新



★ 記念切手発行



★ マスコットキャラクター作成



★ 仙台 89ers 冠スポンサー

平成 29 年 12 月 24 日



平成 30 年 1 月 28 日

★特 別行事

10月 「仙台大大学同窓生・旧教職員対象 ホームカミングデー」

10月 記念プレート除幕式

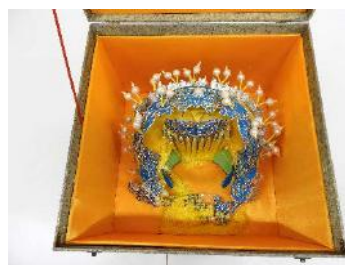


10月 「日本文化交流」(サカモト邸)

11月 「国際交流イベント(I F E in SENDAI)」



(受贈記念品)



1 月 「開学 50 周年記念式典」

★ 冠 行 事

**開学50周年記念
冠大会カレンダー** 1967～2017

～記念イベント～

- ・柔道部「イタリア柔道クラブチーム招待 柔道教室」2017.4.17 (終了御礼)
- ・アスレティックトレーナー部「仙台国際ハーフマラソン大会ブース参加」2017.5.14 (終了御礼)
- ・ボブスレー・リュージュ・スケルトン部「プラスチックソリ大会」2017.5.27 (終了御礼)
- ・陸上競技部「陸上競技記録会チャレンジ 2017」2017.6.4 (終了御礼)
- ・漕艇部「白石川環境整備事業」(柴田町ボート協会共催) 2017.7.22
- ・剣道部「心池会杯争奪剣道大会」2017.7.29
- ・「心池会杯争奪剣道大会」2017.7.30
- ・女子サッカー部「白石温睡ウーマンズ杯」2017.8.5～6
- ・硬式野球部「硬式野球部OB交流大会」2017.8.7～8
- ・バレーボール部「樺ノ木杯」2017.8.8～9
- ・「松本杯」「穴戸杯」2017.8.26～27
- ・体操競技部「全日本選抜大学体操競技選手権大会」2017.9.17～18
- ・硬式テニス部「50周年記念テニス交流会」2017.10.7～8
- ・卓球部「仙南地区卓球大会」2017.10.9
- ・新体操競技部「仙台大学新体操演技発表会」2017.12.3
- ・サッカー部「仙台大学サッカー部 OB プロ選手との対抗試合」2018.1 (予定)
- ・ハンドボール部「県学生ハンドボールリーグ戦」2018.1～3
- ・柔道部「第1回高校女子柔道大会」2018.1～3

川平(仙台) CAMPUS

船岡南(柴田) CAMPUS

神次郎(角田) CAMPUS

MAIN CAMPUS (柴田・船岡)

仙 台 大 学

・ 4 月 「イタリア柔道クラブチーム (AISE) 招待柔道教室」



・ 5 月 「プラスチックソリ大会」



・ 5 月 「仙台国際ハーフマラソン」



・ 5 月 マレーシア「女子バスケ親善試合」



・ 5 月 ロシア 「ニジェゴロド州サッカー親善試合」



・ 6 月 「七十七銀行陸上記録会」



・ 7 月 剣道部 「心池会杯争奪剣道大会」



・ 8 月 硬式野球部 OB「交流大会」



・ 8 月 女子サッカー部「白石温麺ウーマンズ杯」

・ 8 月 「平成 29 年度学校法人朴沢学園事務職員研修会」

- ・ 10月 「2017 東北こども博・大学祭・スポーツフェスティバル in 柴田」



- ・ 12月 男子サッカー部「OB対抗戦」



- ・ 2月 「女子学生柔道団体対抗大会」



- ・ 3月 「健康福祉研究会(想いで語る健福ランチ&カフェ)」

◎ 川平地区再整備事業関係

以下の通り、事業実施に先立つ準備作業を行いました。

- 7月 仙台市 副市長訪問 再整備構想説明
- 7月 公立高校 施設見学(石巻工業高校・宮城野高校)
- 8月 仙台市関係各課 調整会議
- 9月 土砂災害防止法に基づく現地調査(ラボ・グラウンド周辺)立合い

- 1月 川平地区再整備事業に伴う説明会案内資料配布
- 2月 川平地区再整備事業説明会
- 3月 日本私立学校振興・共済事業団・融資部長打合せ
- 3月 「川平地区再整備事業に伴う第2回住民説明会」

◎ 高大連携：同一学校法人下での事業を次の通り実施しました。

★ 「明仙育進会」

明成高校出身仙台大学進学学生の保護者組織である「明仙育進会」を3回開催し、履修状況その他の学生生活、仙台大学動向について。情報交換を行った。

★ そ の 他

- 5月 特別養護老人ホーム「うらやす」 遠隔操作型アンドロイド(テレノイド)視察
- 6月 宮城県保健福祉部との介護福祉士資格取得に係る留学生受入意見交換
- 7月 「高大連携関係者情報交換会」
- 7月 「明成高等学校介護教育情報交換会」
- 8月 平成29年度「第1回中高大連携会議」

◎ 国際交流： 高校部門・大学部門合わせ、以下の交流を実施しました。

- 4月 瀋陽師範大学短期留学生開講式
- 4月 ロシア連邦ニジェゴロド州「青年サッカーチーム」のスポーツ交流打合せ
- 4月 韓国交通大学交流セミナー
- 5月 柴田町日中友好協会「平成29年度総会」
- 7月 シーナカリンウィロート大学留学生送別会
- 7月 上海体育学院卓球夏合宿視察
- 7月 カリフォルニア州立大学ロングビーチ校サマープログラム
- 8月 「韓国伝統武道」(韓国交通大学)実施
- 8月 「中国武術Ⅰ・Ⅱ」(瀋陽師範大学)実施
- 8月 ニュージールランド協会(宮城県知事公館)行事
- 9月 ハワイ州立大学「AT研修アドバンスコース」
- 9月 瀋陽師範大学附属幼稚園視察訪問
- 9月 JASSO(日本学生支援機構)主催「平成29年度日本留学フェア(inベトナム)」
- 10月 駐仙台大韓民国総領事館主催「開天節を祝うレセプション」
- 11月 上海体育学院の「開学65周年記念式典・交流等」
- 11月 新潟中国総領事館表敬訪問(柴田町役場&仙台大学)
- 11月 日中植林国際連帯事業「中国大学生訪日団第3陣(バレーボール)」スポーツ交流
- 12月 「2017 仙台白菜で作るキムチフェスティバル」
- 12月 日本私立大学協会視察団長業務として「ベトナム(ハノイ)への視察」
- 2月 ニュージールランド・カンタベリー大学(クライストチャーチ市)訪問
- 3月 明成高等学校視察訪問の台湾の大学教育関係者等懇談会
- 3月 2017年度「中国青年メディア関係者代表訪問団(第3陣)」

◎ スポーツ関係

★ 明成高校から米国ゴンザガ大学に進学した八村 塁氏との交流は次の通りでした。

6月 ゴンザガ大学関係者懇談(東京都内ホテル)

6月 「八村 塁選手帰国報告会」(明成高校体育館)

7月 「2017FIBA U—19 男子バスケットボール世界選手権大会」(カイロ)現地激励

2月 米国・ゴンザガ大学訪問(ワシントン州ススポーン) N C A A視察

★ 東京オリパラ：次の取組を実施しました。

・ホストタウン事業

(ベラルーシ共和国)

6月 ベラルーシ新体操チームと 2020 東京五輪事前合宿に係る「協定書締結式」

8月 東京オリ・パラ事前合宿招致推進協議会幹事会

10月 「ベラルーシ新体操ナショナルチーム公開演技会」(第5体育館)

1月 「東京オリパラ事前合宿招致推進協議会」打合せ



(パラオ共和国)

4月 パラオ共和国政府関係者及び蔵王町長等の視察対応

1月 「未来への交流・絆」スポーツ訪問団

パラオ共和国出張

2月 「参議院文教科学委員会懇談会」

2月 「2020 東京オリパラ競技大会・パラオ共和国選手団
事前キャンプの際の施設使用に関わる協定締結式」



・そ の 他

1月 ハンガリー柔道連盟へのサポート体制
に関する協定書調印式



★ その他高校スポーツ関係

7 月 南東北総体 2017

女子サッカー 男子バスケットボール(準優勝) 男子体操 出場

1 2 月 「ウインターカップ 2017」 2 年ぶり 5 度目の優勝

★ その他大学スポーツ関係

1 2 月 馬場皐輔投手の「阪神入団激励会」

1 2 月 日本クリケット協会打合せ

2 月 「2018 平昌五輪・スケルトン選手を応援する会」 (平島選手)

2. 仙台大学

開学 50 年後に向けて「どう経過していくか」を最大テーマに、温故知新の考え方をもとに、特に大学教育の実状を再認識したうえでの教育改革という視点で 50 周年事業を実施することを事業計画として掲げた結果が、上述の概要であります。

事業計画において教育改革の具体的事項として、「『3 つの方針』への認識統一と遂行」、「学生の実態を踏まえた英語教育改革」、「東京オリパラ事前キャンプで招致するベラルーシ新体操に対する地方創生事業としての地方大学の役割を認識した大学教育の構築」、「プロスポーツ企業の 89ERS との間で構築したアカデミックパートナーシップ関係の教育課程への取込と、他スポーツ競技との関係拡大」等を列挙しましたが、取組状況は、それぞれ、次の通りでありました。

「『3 つの方針』への認識統一と遂行」については、これを踏まえたカリキュラムの改革を検討し、折からの行政当局による教員養成課程改革に関する再課程認定申請手続の経過を睨みつつ次年度にカリキュラム改定を実施することとしました。「英語教育改革」は実施初年度にあたり、対象学年である 1 年生に対し習熟度別のクラス編成のもと、スポーツ事象を多面的に教材として取込み、履修状況に関するデータ処理のシステム化も含め、概ね、想定通り推移しました。一方、「地方創生事業としての地方大学の役割を認識した大学教育の構築」は、予定していた「私学ブランディング研究事業」採択が実現せず、継続的検討事項となりました。「アカデミックパートナーシップ」は、プロバスケットボール球団に引き続き、プロ野球、プロサッカーの各球団との協定締結が実現し、教養教育のうち 2 年生を対象とした全学共通授業科目「キャリアプランニングⅡ」において、現場実践経験の体制が整備できました。引き続き、高学年対象の更に深化した実践教育への体系確立を図ること

としております。

この他、4月に開設した「こども運動教育学科」の教育体制・内容の認識統一と海外交流も含めた円滑な運営、大学行政動向を踏まえた体育学科定員増に係る手続の円滑な実施、教職支援センター機能充実を通じた公立学校教員現役合格率の向上、私立大学等改革総合支援事業の継続的獲得などに取組みました。

研究面では、地域連携の観点から、地元企業との間で、栄養サプリメントの効果実証、民間企業従事者の身体活動実態調査と助言事業、自然環境下での運動実施者に対するアスリート菓子の開発、健康器具市販製品の効果実証実験等に取り組んだ他、スポーツ情報処理に関し、ソフトウェア(ダートフィッシュ)に係るカンファレンス等を開催しました。

3. 明成高等学校

「2年後に到来する3年間の大幅な中学校卒業生数減少をどう乗り切るか」、そのために「建学の精神を踏まえた教育体制をどう構築するか」、そして、これを踏まえた「高校校舎建替構想の確定」を事業計画の最重要テーマとし、「『介護』『食育』等に関する文科省等の助成事業の採択獲得等を通じた介護福祉科、調理科の教育内容の深化」、「ダートフィッシュ等のソフトウェアを活用した情報表現コース教育の再構築その他、建学の精神を踏まえた普通科教育の改革」、「南東北インターハイ開催に即した健康スポーツコースの教育振興等を通じた、川平A Tルームとの連携その他、同コースの教育内容の進化」等を列挙しましたが、取組状況は次の通りでありました。

「介護、食育等に関する事業助成の採択獲得」については採択が実現し、申請事業計画内容に従って遂行しました。「情報表現コース教育」も、仙台大学スポーツ情報マスメディア学科との連携のもと、ICT教育に関する新しい視点での教育体系の導入を図りました。「川平A Tルームとの連携」については、怪我の予防を主体とするアスレチックトレーニング領域のみならず、ストレングス・コンディショニング領域についても仙台大学関係部門との連携のもと、試行的導入が順調を実施しました。

この他、グランドデザイン具現化のための重点目標達成評価、プラクティカルラーニング・フォア・オールの浸透、学びの姿勢と基礎学力の定着のための具現策の充実、進路100%達成と質の向上のための計画的施策の実施、新入生研修合宿の工夫・改善および進学勉強合宿の充実、成績会議の充実、部活動全体の充実および奨励志向から強化志向による学校の活性化、教師力向上また若手教員の研修機会の充実、介護福祉科国家試験合格率の維持向上や介護福祉科定員確保策の改革等について、それぞれ具体的実践の蓄積を図るとともに、中高大連携会議や外部評価委員会の質的充実を図りました。

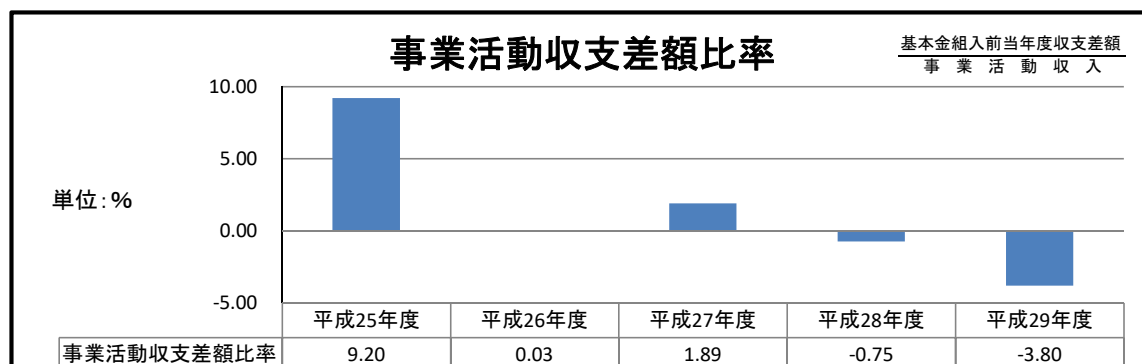
また、新校舎建築に向けた準備の推進として、将来構想委員会において、校舎新築構想に伴う学科コースの改編等を検討し、学校の将来の展望の共通理解を図りました。

財務の概要

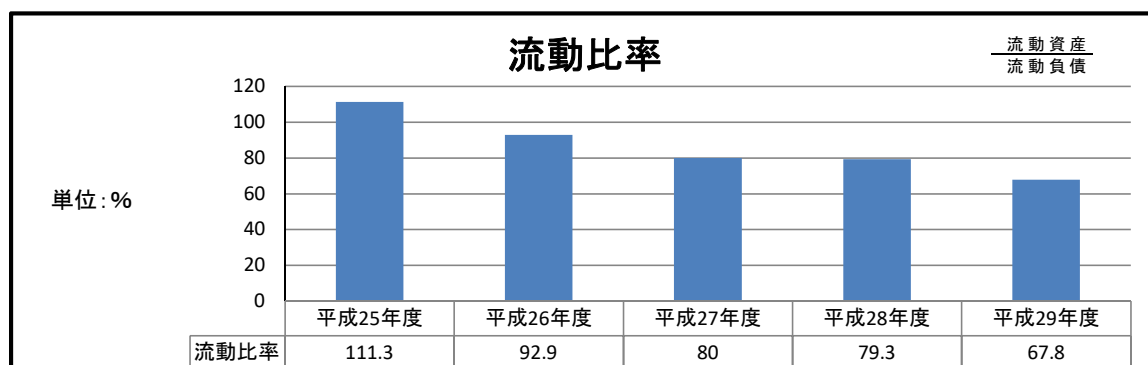
財務状況は、大学部門のホームページ「学校法人情報」に掲載しております平成29年度計算書類のとおりであります。なお、法人部門、高校部門、大学部門各部門のホームページの連動・一体化に向けた作業が完了し、今後、財務分析経年比較等の情報公開についても、さらに改善を図ることになります。

また、主な財務比率の経年比較は、添付「別紙」資料のとおりであります。

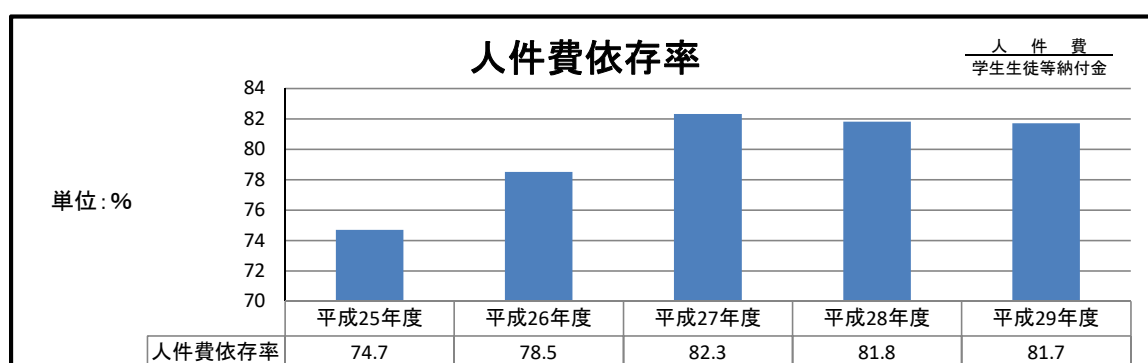
以 上



設備投資計画の無い状態で、10%以上期待。



銀行比率ともいわれ、200%以上あれば信用度は高い。



人件費は、学生生徒等納付金の範囲内に収まっていることが望ましい。

1. 資金収支計算書

収入の部では、前年との増減は次の通りとなりました。

学納金収入	45,004千円の増加となりました。
補助金収入	35,928千円の減少となりました。
付随事業・収益事業収入	6,981千円の減少となりました。
借入金等収入	50,000千円の減少となりました。

支出の部では、前年との増減は次の通りとなりました。

人件費支出	29,025千円の増加となりました。
教育研究経費支出	55,684千円の増加となりました。
管理経費支出	98,610千円の増加となりました。

合計では、231,698千円の減少となりました。

2. 事業活動収支計算書

収入では、前年との増減は次の通りとなりました。

基本金組入前当年度収支差額	137,914千円の減少となりました。
基本金組入額合計	131,354千円の減少となりました。
事業活動収入合計	17,851千円の増加となりました。

支出では、前年との増減は次の通りとなりました。

事業活動支出合計	155,765千円の増加となりました。
----------	---------------------

当年度収支差額では、6,560千円の減少となりました。

3. 貸借対照表

資産の部では、前年との増減は次の通りとなりました。

固定資産	17,237千円の減少となりました。
流動資産	92,035千円の減少となりました。
資産の部合計	109,272千円の減少となりました。

負債の部では、前年との増減は次の通りとなりました。

固定負債	18,242千円の増加となりました。
流動負債	43,868千円の増加となりました。
負債の部合計	62,110千円の増加となりました。

純資産の部では、前年との増減は次の通りとなりました。

基本金	18,699千円の減少となりました。
繰越収支差額	152,683千円の増加となりました。
純資産の部合計	171,382千円の減少となりました。

以 上